

#子育て処方せん

- 安全な場所で衣服をゆるめる
- 呼吸をしやすく、頭を後ろに反らせ、顎をあげる
- 顔と体を横向きの姿勢にする
- 口の中の物は取り出す。割り箸やタオルは押し込まない
- 5分以上発作が持続する、顔色や呼吸が回復しない時は救急受診



吉良龍太郎 副院長

てんかんは、けいれんや意識障害などの発作が繰り返して起きる慢性の脳の病気で、子どもや高齢者の患者が多い。1000人中8人程度がてんかんを持っていると言われる。

出産時の障害や脳炎の後遺症、遺伝子の異常など発病の原因は様々だ。症状も多岐にわたり、▽ぼーっとしたり記憶をなくしたりする

てんかん

福岡市立こども病院の医師に病気の症状や予防法などを尋ねる「#子育て処方せん」。今回は小児神経科長の吉良龍太郎副院長に、てんかんについて聞いた。

治療は投薬が中心

意識障害▽手足が突っ張ったりガクガクとけいれんしたりする運動機能の障害▽嘔吐や顔色が悪くなるなどの自律神経の異常▽おなかがちくちくと痛くなるといった感覚の異常——などがある。

乳児が発症するウエスト症候群(点頭てんかん)には注意する必要がある。けいれんなどの発作の後に、笑わなくなったり、首が据わらなくなったりといった

発達停滞や退行がみられることがあるため、早期に治療を始めなければならぬ。気になる症状があれば、近くの小児科に相談してほしい。

治療の中心は投薬だ。ウエスト症候群には、ACTHという副腎皮質刺激ホルモンを投与する。一般的なてんかんは抗てんかん発作薬を内服し、発作を抑える治療を行う。発作が消失しない場合、他の抗発作薬を

溺水や転落事故に注意

使うことになる。複数の薬を試しても改善しない時は、脳の発作の震源地を切除する手術も選択肢に入る。

過去には治らない、普通に進学できないと言われることもあった。子どものてんかんは自然に治るものも多く、適切に治療を受ければ普通の人と同じ生活もできる。

ただ、溺水や転落事故には気をつけなければならぬ。浴槽には入らずにシャワーを使う、駅のホームでは先頭に立たないなどを心がけてもらいたい。

(聞き手 遠藤信葉)

1月中旬の週末、佐賀県神埼市の日の隈公園では、寒空の下でも子どもたちの歓声が響いていた。兄が回す回転遊具で、弟や初めて会った年下の子どもたちと遊んでいた小学3年の八谷航聖君(8)は、「みんなで遊べるから楽しい」と笑顔を見せた。

公園に設置されているのは、年齢や性別、障害の有無にかかわらず、誰もが一緒に楽しめる「インクルーシブ遊具」だ。市は誰もが「幸せ」を感じられる環境づくりを目的に導入を決定。2022年3月、車いすでもあがれるようにスロープがついた複合遊具や、背の低い子や車い

すのままでも遊べる高さの違うテーブル式の砂場、背もたれや安全ベルトがついたブランコなどを整備した。

完成後、近隣市町の保育園や幼稚園、小学校の子どもたち、福祉施設の利用者らが遠足で訪れている。駐車場がいっぱいになることも多く、増設した。市の担当者は「様々な年代の子が遊べる遊具が増えて良かったとの声が寄せられている」と話す。

インクルーシブには「包み込むような」という意味がある。山口県宇部市の山口宇部ふれあい公園や宮崎県日南市の「道の駅きたさう」など各地で導入が進んでいる。



回転遊具には腰掛ける座面や手すりがあり、年齢にかかわらず一緒に遊べる(佐賀県神埼市の日の隈公園で)

「#子育て処方せん」へのご意見をお寄せください。社会部のメール(s-syakal@yomiuri.com)へお願いします。



インタビューの動画はQRコードを読み込んでください

インクルーシブ遊具広がる

年齢、障害問わず